

令和6年度 第2回 高石市保健医療福祉審議会専門部会 議事録

【開催日時】 令和7年1月27日（月） 午後1時30分から開催

【開催場所】 高石市役所 別館1階 会議室113

【出席委員】 委員14名中13名の委員が出席され開催いたしました。

金谷 志子	山崎 雅雄	小谷 哲夫
中谷 正彦	柴田 正明	若崎 孝子
中野 達郎	銭廣 幸壮	太田 政子
松若 貞二	土師 一仁	米谷 正次
村上 洋次		

（以上委員13名）

【欠席委員】 岩田 信生

【傍聴者】 なし

【日 程】 議題1 「第6次高石市地域福祉計画・第5次高石市地域福祉活動計画」策定について
議題2 その他

【質疑応答】

・議題1、「第6次高石市地域福祉計画・第5次高石市地域福祉活動計画」策定について

（会 長）それでは、事務局の説明内容、また素案の内容等について質問、ご意見がありましたら挙手をお願いします。

（委 員）資料53ページのともに“いきる”「地域づくり」の略図の中で、基本イメージがあり、登録者とそれを見守る安心相談登録員という形になっていますが、実際の見守り対象となる高齢者の数とか、今後の推移がある程度把握できているのかということと、見守り登録する側の人間、ちょこっとたすけあいサポーター、500名ほど登録されているというデータがあったと思いますが、実際に安否システムが稼働できる人数構成になっているのかどうかということをお聞きしたい。

（会 長）今のご質問ですが、54ページの見守り安否確認システムという仕組みについての

ご質問ということでよろしいですか。見守りの対象者を把握されているかということですが、事務局のほう、お願いします。

(事務局) 現在、システムは確立されていませんので、今把握していますのは、民生委員・児童委員協議会のほうで75歳以上の独居高齢者の方を、見回りしていただいたり、地域ごとに校区福祉委員のほうで高齢者の方の見守りをしていただいているということです。そういった方々が対象となってくると考えていますが、正確な人数の把握というのはまだだということです。

ただ、先ほど申しました個別避難計画、これが避難行動要支援者ということになりますが、この人数については、高石市で約二千数百名いると把握しています。こういった方がこのデータに載ってくる可能性が高いと思っています。

見守り登録員ですが、それだけの見守りの人数が確保できるのかということですが、今、民生委員が市内に約92名、あとは各小学校区ごとに校区福祉委員がいっぱいいます。そういった方々が見守り登録員として登録していただければと考えています。

今、一番の課題は、地域で見守りをしていただいている方が、市のほうに何か異変があるということで報告いただいた際に、その方の個人情報を一般の方になかなかお伝えすることができないという現状があります。また民生委員と校区福祉委員の間での情報共有ですが、立場が違うのでなかなかできないというところがあります。このシステムをつくることにより、情報共有とか見守り安心相談室での一元管理ができるようになるかと考えています。

(会 長) 関連して質問ですが、今の見守り安否確認システムの中にあります見守り安心相談室というところですが、相談等を受けて、状況を報告するようなことをおっしゃっていましたが、この相談室自体は見守りを実施しないという理解でよろしいですか。

(事務局) 安否確認システムについては、まだ検討段階ですので、細かなところは今後詰めていくところです。今ある見守りのシステムを、こういった形で情報を一元化して情報提供できるというところをベースに考えています。社会福祉協議会が急にそこで見守りたいということは今のところは考えていません。

(会 長) 承知しました。

ほか、ご質問、ございますか。

(委 員) 前回と少し重複するかもしれませんが、少子高齢化が進み、いろんな地域のコミュニティー事業の担い手がどんどん高齢化し、不足していくことが予測されています。事務局から頂いている概要版の中で、地域福祉に対する意識の啓発、福祉教育の充実、地域福祉の担い手の確保・育成として、地域活動者の発掘・育成ということが掲げられていると思います。大人の担い手が不足している中、高校生、専門学校生、大学生による、避難者に対する支援の在り方ということが提言されています。

今後日本の担い手となる子ども達に対し、福祉教育の充実に取り組んでいただきたい。また、災害時に中高生及び大学生が避難者の誘導に手を貸してもらえることが、今後の社会において大事になってくると感じています。

2点目は、健康が一番大事だということです。

高齢者になると、足腰が弱くなってきて、だんだんうつむき加減で、よちよち歩きになってきます。

健康維持の為に、足腰を鍛えることが大切であると感じています。ただ、各々が自身で意識を高く持ち続けることは困難ですので、情報提供や物理的なトレーニング場所の提供が必要ではないかと思います。整形外科や鍼灸の施設は沢山あるので、国に要望するなりして、トレーニング用の機械を置き、保険適用できるようにしていけばいいのではないかと考えます。

3点目は、安心して“暮らせる”「まちづくり」、虐待の防止ということです。いじめも含まれるのではないかと思います。学校ではいじめや不登校、いろんな問題で、自殺する子どもたちも出てきています。

小学校において、教師の数も少なく現場が大変な状況にある中で、不登校・いじめ・貧困等様々な問題に対し、子ども達がSOSを出せるような取り組み、またサポート体制を整えてほしいと考えます。

それから認知機能が落ちた方への対策も、これから取り組んでいかないといけないと思っています。

(会 長) 分かりました。

担い手というところで、若手の方の担い手として中・高生や大学生を入れた担い手ということを考えてはどうかということでした。それから健康づくりというのはやはり大事だということで、高齢の方を中心とした健康づくりには筋力トレーニングなどが大切で、そのためには機器などを貸与するようなことも盛り込んではどうかというご意見でした。また、虐待防止、認知症の方への対策というのも大事だというご意見だったと思います。事務局のほうから、これに対して何かご説明等ございますか。

(事務局) 1点目と3点目、福祉教育等の充実ですとか、いじめ、不登校等の対策、そういったところについては、小・中学校と連携しながら、イベント・研修などで充実していければと、施策の中に盛り込ませていただいています。

また、防災のほうも、本年は実施していませんが、一昨年まで実施していました避難訓練については、南海福祉専門学校、各保育所等にも参加いただいている状況です。引き続き小・中学校のほうとも連携しながら、福祉教育の充実を図っていきたいと考えています。

健康づくりについては、介護保険課長から答弁させていただきます。

(事務局) 健康づくりについて、我々も本腰を入れていかないといけないという認識です。

人口動向を考えますと、2025年は、団塊の世代の方々がどんどん75歳以上に到達していく、後期高齢者に到達していくということ、2040年には、団塊ジュニアの世代の方々が65歳、高齢者に到達するという時代を迎えることになります。そういったことを踏まえて、高齢者の健康づくりはもちろんですが、40歳、50歳から健康づくりをしていかないといけないということです。最終的には医療とか介護が必要になってきますが、なるべく健康な状態を長く続けていただくことです。現在、70代の方に関しても、トレーニングしたり、フレイル予防としてその構成要素の運動と栄養、社会参加などを行っていくということです。これが認知症の対策にもかなり関連していますので、力を入れていくということと、どうしても医療と介護が必要な段階においては、包括的な支援体制を構築して、安心して生活していただける体制づくりということを、今後、本格的に取り組んでいきたいと考えています。

その中で、器具の貸与とかいうことも含めて、効果的に考えていきたいと思っています。

(会 長) ほか、ご質問やご意見等ございますか。

(委 員) 72ページに自殺予防とありますが、これについてお聞きします。死亡率とか、高石で具体的には年間何人ぐらいなのか、全国と比べていかなものかということです。

(会 長) 72ページの自殺防止対策というところで、本市の自殺死亡率というのが出ていますが、もう少し詳細なご説明をお願いします。

(事務局) ここには掲載していませんので、別のデータを開きます。

まず、自殺死亡率という形で出ていますが、実際の自殺者数についてですが、令和5年では5名把握していて、これが8.8%となっています。

令和4年が7名、令和3年が8名、コロナが広がっていたときが一番増加したというところで、令和2年が15名です。

それ以前、平成31年は9名なので、令和2年がコロナ禍では少し高く上がってしまいましたが、平成31年以降、令和2年を除いては減少傾向にあると理解しています。

(委 員) 今の説明ですが、年齢層について分かりますか。令和5年に亡くなられた方の年齢層は把握できていますか。

(事務局) 令和5年については、5名の方がお亡くなりになっています。自殺されたということです。この5名は、令和5年度は男性の方が5名で、年齢層は20歳代が1名、40歳代が1名、50歳代が1名、60歳代が1名、70歳代が1名の計5名です。一昨年は、7名でして、5名が男性、2名が女性です。男性については、20歳代

が1名、30歳代が2名、50歳代が1名、60歳代が1名です。女性については、50歳代が1名と80歳以上の方が1名ということで、ある年代に偏っているというところではないというところです。

(会 長) 今、自殺者の詳細ということで、性別や年齢についてご説明がありました。1年に亡くなる方というのが少ないですので、割合にすると少し、1人増えるだけで人口が少ないところは高くなるという傾向はあります。

(委 員) パターンは分かりますか。男性の方と女性の方のパターンというか、年齢層は、男性の方は20歳の方がいますが、女性は50歳代からというのはどうお考えですか。

(事務局) いろいろな要因があるとは思いますが、地域の主な自殺者の特徴ということで、2019年から2023年、5年間の傾向ですが、一番多いのは、男性20代から39歳の職があつて同居されている方ですが、職場の人間関係・仕事の悩み・パワハラ・過労とかがあると思います。そういった要因から鬱状態になって自殺されたり、また、女性であれば、40代から60歳までの無職の同居されている方で、近隣関係の悩み・家族間の不和、こういったところから鬱病になって自殺されたり、また、男性で40歳から60歳までの職業も持って同居されている方についても同じような形で、配置転換による過労、職場の人間関係の悩み、仕事の失敗、責任が重くなってきたことによる鬱状態からの自殺、そういったところがこの5年間のケースとしては一番多いというところです。

(会 長) 今のように年齢や性別、背景等を踏まえて、対策として、この計画に具体的に盛り込まれるというように聞いております。

ほか、ご意見、ご質問等ございますか。

(委 員) 困り事があつた場合、誰に相談していいか分からないということがあります。相談すれば何でも聞いてくれるという、窓口は絶対必要だと思います。誰に相談しようかと行き詰まっている人が、非常に多いと思います。それをボランティアしながら感じています。

(会 長) 相談につながらない方もたくさんおられるということは、なるべく相談につながるような仕組みづくりをというご意見かと思います。

事務局から、何かご説明ございますか。

(事務局) 相談窓口ということですが、市のほうでも窓口があります。困られた場合は、総合相談窓口として高石市社会福祉協議会にご相談いただければ、まず受けさせていただき、お伺いした内容に応じて適切な対応なり、適切な場につなげていけると思います。

ただ、一方で、相談になかなか来られない人に対しては、アウトリーチの孤立ゼロプロジェクトというのがありますので、そこから拾っていただければと思っています。あわせて、コミュニティカフェとかそういった集いの場づくりを進めていまして、

運営支援についても社会福祉協議会に入っています。先日の策定部会でもご報告させていただきましたように郵便局のほうでも受けています。一番の問題は、それをどのようにそういった方に伝えるのかということです。相談したいときにどこに行ったらいいのかというところを整理して、周知していくということも今後の一つ課題であると考えています。

(会 長) 本当に困っている方が相談するということが自体大変なことだという認識の下、いろいろサービスや体制、整えていきたいと考えます。

ほか、ご意見やご質問ございますか。

(委 員) 地元がいかに協力していくか、地元の人材確保が一番大事だと思います。福祉委員も平均70歳ぐらいです。今度は、お世話するほうでなく、お世話してもらう立場に変わっていきます。人材確保、担い手確保をどうするかというのは大きな問題だと思います。

この福祉計画全体も、市や社協が中心になるよりも、地元の人間が力になるほうが早いと思います。今は個人情報の問題で、個人的にお話しにくくなっています。また隣近所の付き合いが、少なくなっていると思います。

だから福祉委員や民生委員の方が、他人の懐へ入りにくい、入ろうと思っても拒否されるという現状を、どう潰していくかが一つの福祉の目標になるのではと思っています。

(会 長) 人材確保が課題だということですが、福祉委員もやはり高齢化が進んでいるという点についてはどうお考えかご回答いただけますか。

(事務局) 若い方々については、なかなか福祉委員に入っていない、地域に入ってきていないという実情が実際あると思います。

我々も社会福祉課としまして、民生委員になっていただくために、職員が汗をかいて、なっていただけませんか活動させていただいているような状況です。同じように福祉委員についても人材不足というところはあると思います。個人情報の話もありましたが、地域のつながりが大事だということを小・中学生、若い頃から教育で教えていくということも重要だと考えています。

この問題について、今後一緒に検討させていただいて、次の世代に広げていくということができたらと感じています。ボランティアポイント事業というものの一つのきっかけになればと考えています。

(会 長) ほか、ご質問やご意見ございませんか。

(委 員) 繰り返しになりますが、自殺の問題です。以前のアンケートの中で、この冊子の25ページにゲートキーパーの養成とありますが、73ページもゲートキーパー養成研修の企画・調整となっています。ゲートキーパーの実際の資格もしくは今ゲートキーパーがこの高石市内に何名いらっしゃるのかということ、あと企画・調整が今

後いつどの時期になるのかというところです。

67ページだったか、メンタルヘルス対策に関する情報の周知・啓発に努めますとありますが、高石市であれば、どこに相談すればいいのかというところを教えてくださいたいと思います。

(会 長) 自殺対策のところにゲートキーパーというのがありますが、そのゲートキーパーの養成研修、今現在されているゲートキーパーの状況について教えていただきたいというのが1点目。

それから、資料の67ページにありますメンタルヘルスの対策というところで、具体的に本市ではメンタルヘルスについての相談窓口とかそういったところはあるのか、状況を教えていただきたいというご質問です。

(事務局) ゲートキーパー養成研修ですが、過去5年間確認させていただいたところ、ゲートキーパー養成講座をこれまでやってきていませんでした。自殺対策については、お困り事とか悩みを抱えている方に対して早期発見し、その課題解決につなげることが一番重要であるということから、今後、ゲートキーパー養成研修の企画・調整等を行っていききたいというところで記載させていただきました。

メンタルヘルスについてですが相談窓口がどこかというところについては、73ページの頭に書いております保健福祉総合相談・案内窓口、これが今現在、健康増進課になります。何かほかの要件で本市の窓口を訪れた際には、何か悩みを持った方には、そういったところにご案内して、問題がないかということの把握に今後努めていきたいと考えています。

(会 長) ほか、ご質問、ご意見ございますか。活発なご意見ありがとうございました。

欠席された委員から事務局に何かご意見があったと伺っていますが、共有をお願いします。

(事務局) 本日ご欠席されております委員の方から、ご意見だけ述べさせていただけたらということでした。

2点伺っています。まず1点目、患者さん等を見ている中、独居で身寄りのない高齢者が増えてきている中で、地域からの見守りなどで手を差し伸べても、それらを拒否されている方がおられ、どう拾い上げていくのが難しいが、こういった方を孤立させないようにしていかないといけないというご意見です。

2点目、独居の高齢者だけではなく、例えば共に認知症の症状がある老夫婦、日中独居などほかの見守りが必要なケース・世帯に対しても可能であれば把握し、見守りができればよいのではないかとということで、見守り安否確認システムの中での対象者についてのご意見をいただきました。

(会 長) はい、ありがとうございます。

ご質問がないようですので、議題1につきましては、これで以上とさせていただきます。

ます。

【質疑応答】

・議題2、その他

(会 長) 事務局のほうから何かございますか。

(事務局) 前回、今回と2回にわたって、皆様につきましては、今回、計画につきましてご意見いただきましてありがとうございます。本日いただいた意見も踏まえまして、修正等、検討させていただきまして、次、審議会のほうに素案としてさせていただけたらと考えております。

先ほどスケジュールを申し上げましたとおり、2月中旬から3月中旬にかけてパブリックコメントを実施して、作業を完成という形に持っていけたらと考えております。

また、完成しました暁には、策定部会員の皆様に出来上がりました計画をご配付させていただきたいと思っております。

本日はありがとうございました。

(会 長) それでは、以上をもちまして、本部会をこれで閉会といたします。

活発なご意見、ご質問、どうもありがとうございました。